No.	項目	項	番号	質問内容等	回答
1	4	1	(1)	過年度においてかごしまアントレプレナーシップ養成塾を実施された際，プログラム終了後に挙がった具体的な課題について	課題としては，県内の大学生や離島地域に住む学生の参加がなかったことが挙げられます。
2	4	1	(2)	鹿児島県における「スタートアップ」の定義について	当事業におけるスタートアップについては，新しい技術や斬新なサービスなどによる加速度的な成長を目指す企業だけではなく，一定の収益を保ちつつ，成長意欲を持って新しいアイデアやサービスで市場に参入し，中長期的にさらなる成長を目指す企業などを想定しております。創業年数，事業ステージ，投資状況などについては，特に定めていません。
3	4	1	(2)	海外スタートアップを対象にしている背景と意図について	海外で事業を展開しているスタートアップとの交流は，キャリア選択の幅や視野を広げ，チャレンジ精神の喚起に効果的であると捉え，海外スタートアップとの交流を図ることで，若い世代の起業家マインドを養成することを期待しているものであります。
4	4	1	(2)	仕様書に記載の「日本での実証やプロトタイプ開発等を行いたい海外スタートアップの取組に大学生等が参加するなど，海外スタートアップとの交流を実施すること」について県として特に重視されている方向性について。 ① 実証・開発プロセスを一緒に体験することを重視している（共創・実践型） ② 学生に刺激や視点の拡張を与えることを重視している（学習・講義型）	いずれも重要と捉えており，若い世代の起業家マインドの養成に効果的な海外スタートアップとの交流を図る内容にしていただきたい。
5	4	1	(2)	「開催場所は県内とし，適宜オンラインを活用」とあるが，以下の2 つの想定について，鹿児島県としての意図に齟齬がないかご確認させてください。 ① 学生を会場に集め，海外スタートアップとWEB ツール等で接続するハイブリッド形式 ② 学生を含めた全体をオンライン開催とする完全リモート形式いずれも本事業の想定として許容されるのか，ご教示ください。	全ての開催をオンラインで実施することは原則不可としますが，現地参加が困難な学生等がいる場合は，現地開催とオンライン配信のハイブリット開催を行うこと。なお，企画提案の内容によっては，開催の一部を完全リモートで開催することも認めます。
6	4	1	(2)	過年度において「海外スタートアップとの交流の実施」された際，プログラム実施後に挙がった具体的な課題について	課題については，特にございません。
7	4	1	(3)	「離島に在住する中高生・大学生を5名以上」とあるが，「離島に在住する中高生」と「大学生」を合算して5名以上という理解でよろしいか。	「離島に在住する中高生や離島出身の大学生等を合わせて５名以上」と読み替えてください。
8	4	1	(2)	「適宜オンラインを活用」とあるが，離島に在住する学生のみを対象としたものか。	離島在住問わず在住地と開催場所の距離が遠く，現地参加が困難な学生等については，適宜オンラインも活用してかまいません。
9	4	1	(2)	海外スタートアップの交流につきまして，開催回数に規定はあるか。	開催回数は特に規定はありませんが，海外スタートアップと県内学生の交流が適切に図られるよう実施してください。
10	4	1	(2)	海外スタートアップを選定する際に，国やエリアの指定はあるか。	特定の国・地域等の指定は特にありません。
11	4	1	(1)	かごしまアントレプレナーシップ養成塾の開催回数４回のうち，数回を大学生対象，数回を中高生対象と，対象を分けて企画することは可能か。	差し支えありません。